

## 総合的な学習の時間で活用する ～郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度～

光市立浅江中学校 藤屋 慎一郎

### 1 本場面におけるポイント

- 中学生が「地域の担い手」として活躍を期待されていることに気が付くことができる。
- これまでの地域貢献活動を振り返り、活動の大切さを実感することができる。
- 地域とのつながりに価値を感じ、自己の生き方につなげられるようにする。

### 2 授業の実際

1 主題名（単元名・題材名） 15歳は地域の担い手

2 ねらい

中学生の自分たちに「地域の担い手」として何ができるかを考えることを通して、地域社会の一員としての自覚を高め、郷土の発展に努める心情を育む。

3 展開

(1) 導入 学校新聞「希望」を読み内容を考える。

「希望」を配付し、当時の状況を振り返りながら空欄にしている部分の言葉を考える。

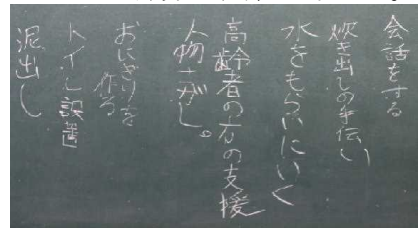
教師：第一中学校の生徒は、地域にどんな貢献ができるかと考えたい。

生徒：班ごとに話し合いをして、各班ごとに発表する。

教師：学校新聞に書かれていた内容を伝える。

直 後 ・川から水をくむ ・お買い物のおつかい  
           ・荷物運び ・灯油運び ・避難所でのおにぎりづくり

一月後 ・地域ごとに需要が変化してきていることを伝える  
           ・物資の仕分け ・地域の掃除 ・がれき撤去作業 ・避難所掃除



□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

大船渡市立第一中学校の学校新聞「希望」は、津波から1週間後に生徒会の有志により書かれている。そこには「何でもやります。」「一中生に声をかけてください。」と大きく書かれ、中学生が地域のために何かをしようとする思いが感じられる。授業の導入で、学校新聞に書かれたボランティアの内容を予想させ、中学生に津波の被害を受けた地域で何ができるかを考えさせる。自分の生活のことばかりを考えてしまいそうなお中、地域のために活動している生徒会の献身的な姿は、同じ年代の生徒に自分にもできるという共感を与えると考える（私たちの道徳P153）。



## (2) 展開 自分たちがこれまで行ってきた地域貢献活動を振り返る。

教師：「あさなえ Jr」として、どんな地域貢献活動をしてきたか思い出してみよう



□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

多くの学校で、総合的な学習の時間を中心に地域の方々と交流する様々な体験活動を行っている。それらの点としての「学び」を結び付けて、線として認識し、日常的な実践力を身に付けることが重要である。そこで、これまでの活動を振り返りながら、地域と自分たちがどれだけつながっているかを思い出させ、「地域の担い手」としての中学生の可能性に気付かせたい。また、地域が自分たちのために何をしてくれるのかという考え方ではなく、地域のために何ができるのかを考えさせたい。

## (3) 終末 地域の担い手として大切なことは何だろう

生徒のワークシートの記述から

- ・ 私たちが行ってきた活動は、「支援」だけでなく、地域の人のことを「知る」ということにもつながっているとわかりました。
- ・ 15歳になってできることが増えてきたように感じます。
- ・ 地域に貢献することとは、特別な活動をすることだけでなく、近所の人や高齢者と日頃から挨拶や会話をすることだと思う。その上で、地域の人に頼ってもらえるようになりたい。
- ・ 災害が起きたときに地域のために一番力を発揮するのは中学生だと思った。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

これまで自分たちが行ってきた活動の意味を再確認し、日々の小さな取組が大きな力になることを感じさせたい。「私たちの道徳」の中にある、社会に対する興味・関心の割合やボランティア活動の参加の割合を見ながら、これからの自分の在り方を考えさせたい。

## 3 実践を振り返って

「私たちの道徳」の内容と自分たちの活動をつなげて学習活動を構想することは大切なことである。ここでは、地域の一員としての視点から物事を考えさせたい。そのために、なぜ地域貢献活動が必要なのかを考えさせたり、道徳の授業で活動の価値付けをしたりすることで、活動の価値を高めていきたい。これからの生活の中でも、「地域の担い手」として地域に貢献することの大切さを感じることに繋がると考える。

